

福岡県飯塚市幸袋 築 120 年古民家『聴福庵』 2017 年のあゆみ④（番外編）

第 23 号 2017 年 8 月 7 日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢



元和元年（1681 年）創業 本吉屋

聴福庵を支える職人+番外編

前号に引き続き古民家『聴福庵』についてです。
今回は番外編と題して、聴福庵滞在中に訪問した柳川での体験、
そして、聴福庵を支える職人さんをご紹介します。

本吉屋 / うなぎ屋 (Eel)

水郷・柳川は、古くから天然うなぎの名産地として知られ、本吉屋
は、天和元年「うなぎのせいろむし」を世に出して以来、今日まで
約三百年間、初代秘伝のタレと料理技術を忠実に伝承してきた老舗
です。関東ではウナギを焼いてタレにつけるのが一般的ですが、
昔から変わらないその味を堪能しました。

柳川藩主立花邸 御花 / 料亭旅館 (Japanese-style hotel)

江戸時代以来、「御花」は柳川藩主立花家の邸宅でした。当時、この辺
りは「御花畠」といわれていたことから、柳川の人々は親しみを込め
て「御花」と呼ぶようになりました。現在、料亭旅館であり、文化財
でもある御花にはいくつもの顔があります。

どんこ船 / 川下り (Japanese River rafting)

約 410 年前柳川城築城のおりに、城下町を形成するために人工的に堀
を掘って整備されました。そこには、治水・利水のための水利体系が
整備されたそうです。昭和 36 年(1961 年)に創業した柳川川下り。

「どんこ舟」に乗り、船頭さんの案内の元、夜の柳川をゆっくり巡り
ました。



どんご船

下川織物 / 久留米絣 (KURUME KASURI factory)

織機はトヨタ製が今でも使われ、世界の TOYOTA も元々は織機製造からはじまった企業で、当時の織機が今のなお現役で使われていることから、トヨタの幹部が見学に来られているそうです。また、パリコレデザイナーやオランダ、北欧からも久留米絣を視察に多く来るそうです。現在、聴福庵で着る羽織を作っています。



下川織物 久留米絣 (がすり)

松延工芸 / 桶屋 (Japanese bucket factory)

すでに一つ明治時代の鋳物付き風呂を直して頂き、現在は漬物樽として使われていた樽を風呂樽に加工して頂いています。漬物樽を風呂桶に加工するのは初めてとのこと、大人 5~6 人が入れそうな大きさです。8 月頃聴福庵に搬送予定です。

秋月和紙 / 和紙屋 (Japanese paper factory)

お手洗いの壁紙は井上さんに一枚一枚手漉きで漉いて頂いた和紙が敷き詰められています。風合いの異なる和紙に包まれた空間は居心地よく、人柄が現れているように感じました。また、本誌を発行するごとに印刷しているのですが、今回は井上さんが漉いた和紙で印刷し保存しています。印刷紙とは異なる風合いを放っています。



松延工芸

筑豊の左官 / 左官 (Plasterer)

小林さんは「左官は水商売」だと言います。気候、温度、湿度などを考慮し仕事をされ、仕事に応じて鏝 (コテ) を変えると言います。小林さんは 300 程、鏝持っているそうで、この数を持っている職人は少なくその分、小林さんの仕事の幅は広いそうです。「最近漆喰の仕事も少なく、10 年経験を積んでもやっと職人さんとして一人前になれるかだ」と仰います。聴福庵の各部屋を漆喰に順次替えて頂きます。



筑前秋月和紙

茅乃舎 / 自然食 (Natural food—Kayanoya Dashi)

茅乃舎の母体は、久原本家という調味料・食品会社です。その起源は明治 26 年。福岡の久原村 (現在の久山町) に開いた、小さな醤油蔵から始まりました。それから 120 余年に渡り、福岡の地で様々な調味料をつくり続けています。ダシ研究のため今回訪問しました。



久原本家茅乃舎（かのや）



左官の小林さんの師匠が作った4連窯

聴福庵を通して感じること

今回、聴福庵を支えてくださっている職人さんの元を訪問し、実際に働いているところを見させて頂きました。

まるで、先生方が他の園を見学して、自園へ学びを持ち帰るように、織物屋さん、桶屋さん、和紙屋さんをお伺いました。

実際にお会いすると、職人さんの情熱・人柄にも触れ、物の売買だけでは感じられないものがありました。そして、何より嬉しく感じるのは、「今、聴福庵でこう使われていますよ！」とフォトブックや動画を観て頂きながら喜びをお伝えできることです。

聴福庵に置いてある一つひとつは、職人さんの手によって作られたもので、そこには一つひとつ物語があります。使い続けて生まれる愛着もありますが、職人さんからお話をお聞きし、もっと大事にしたいと思う気持ちがさらに湧いてきます。

私たちだけで聴福庵を直しているのではなく、多くの職人さんの力をお借りして、多くの物語が聴福庵で生まれています。

保育で有名なレジヨ・エミリアは保育室に本物しか置かないと言います。ここ聴福庵にあるのは全て Made in Japan。まさしく職人さんが作った本物だけが存在します。

職人さんが働いている姿を見られるのは、大人の私にとっても興味深いことです。子どもたちが職人さんの働く姿を近くで見られる環境があったなら、私にはきっと気づけない何か別の世界を見出すのだろうと、職人さんの働く現場を見せて頂きながら、そんなことを思いました。

（報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢）

●過去のバックナンバー

第20号

第44回保育環境セミナー前編

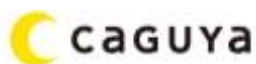
第21号

第44回保育環境セミナー後編

第22号

築120年古民家『聴福庵』2017③

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。